令和5年度　”社会を明るくする運動“可児地区作文コンテスト
小学生の部　可児地区更生保護女性の会　会長賞

「社会を明るくする運動」

可児市立今渡北小学校　5年
遠藤　会雲

三年前世界で新型コロナが流行して、人々が家に閉じ込められて、人が集まる機会がへりました。僕達も学校に行けなくなり、家で勉強や運動をすることになりました。その時人と会わないことがどれだけさみしいかが良く分かりました。そんな暗い世の中を明るくする方法を今回考えてみようと思います。さて、僕はよく人から“ニコニコしてるね”とほめてもらえます。僕は意識していないのですが、お母さんに聞くと口角がいつも上がっているからだと言うことが分かりました。この前もスーパーで買い物の手伝いをして、会計のときにレジの人から“笑顔が素敵ね”と言って、お菓子をおまけしてもらいました。それ以外にも音読の練習の時におばあちゃんから“楽しそうに教科書を読んでいるね”と言われました。これも僕の口角が上がっていることと、楽しんで読んでいるからそのように伝わったのだと思います。この世を明るくする方法で僕が最も大切だと思うのは、この“えがお”だと思います。

その次に僕が人と話す時に笑顔を加えることで会話がスムーズにできた体験を二つお話します。一つ目は僕の通う今渡北小でのことです。僕の小学校では生徒が約千人もいます。外国人の友だちも多く、日本語が得意な人もいますが、中には話すのが苦手な人もいます。その友達と話をする時は、紙に書いて会話したり、ジェスチャーで思いを伝えたりします。ここに笑顔を加えると心と心をちかづかせることができます。笑顔は大切な言葉の一つだと思います。

もう一つは委員会のことで、僕の学校では一年に四回友遊交流という活動があります。この活動は学校全体で縦割りで遊ぶことで、違う学年どうしで絆を高めることができます。僕は今年交流委員会に立候補しました。交流委員の役割は、遊びかたを提案してその準備と進行をすることです。僕は低学年の子達とお話するのは少してれくさいですが、笑顔を加えて話すことで笑顔がはね返ってくることが分かりました。笑顔はまるで鏡みたいに、自分が笑えば相手も笑ってくれます。

このように社会を明るくするには、まず僕自しんが生活を楽しんでワクワクすることです。ワクワクすると心に笑いの芽がはえて、笑顔の花がさきます。笑顔の花をみた人は、それにつられてまた笑いの水をそそいでくれます。そうすることで笑顔の花はどんどん大きくなっていくでしょう。

僕はそんな花になりたいし、世の中が笑顔の花畑になるといいなあと思いました。